まほろん通信

VOL.29

（平成20年7月1日発行）

福島県文化財センター白河館
〒961-0835
白河市白坂一里段86
TEL 0248-21-0700（代）
FAX 0248-21-1075
URL http://www.mahoron.fks.ed.jp

１学期のおでかけまほろん

今年度の「おでかけまほろん」は昨年度に引き続き20校の募集定数でしたが、受付時間と同時に多数の申し込みのFAXをいただき、「あっ」と言う間に募集定数に達しました。

１学期には、これまでに小学校９校で実施しました。「おでかけまほろん」の内容としては、当館の体験学習メニューの中でも人気の「火おこし」や「勾玉づくり」のほか、学校周辺の地域から見つかった土器や石器などの収蔵品を持参し、実際に子供たちにさわってもらう「土器さわり」体験などがあります。（写真は、福島市立平田小学校の勾玉づくり体験）

「火おこし」や「勾玉づくり」は、ただ体験するのではなく、「火おこし具」や「勾玉」についての解説などを交え、昔の人々の「知恵」や「技術」を楽しく学んでもらっています。

また、学校周辺の遺跡地図を持参し、教科書で習う各時代の遺跡が身近な地域にあるといったお話をし、より歴史に興味をもってもらうことも行っています。子供たちは、「おでかけまほろん」での体験を通し、あらためて歴史に興味をもったり、いろいろな発見をしたりと楽しそうです。これから実施する学校・施設の皆さん、楽しみに待っていてください。

体験学習

実技講座「土器作り」

５月 17 日(土)に「土器づくり」講座を開催しました。まほろんでは、収蔵している本物の土器をお手本にしています。参加者の皆さんは各自、自分の作りたい土器を選び、まずは手にとって形、厚さ、文様等を観察します。当時の人々が「どのように作ったか」観察し、推測し、真似をしてみると、見ているだけではわからなかった、その技術と工夫を実感できます。

今回の参加者のなかには、おうちの人と挑戦した小さなお子さんたちの姿も。お子さんが粘土ひもを伸ばし、お母さんが積み上げ、着々と形になっていく、ほほえましいチームワークです。

なかには、お皿状の土器に挑戦した女のお子さんもいました。浅鉢やお皿のように上部が開いた形は、粘土の重さでどんどん広がってしまうので、実は深鉢より難しいのです。職員の不安をよそに、うまい具合に本物そっくりに成形していました。お見事です！

形ができたら、カラムシや麻の繊維をよった原体を使い、表面に文様をつけます。お手本の土器を真似つつも、簡略化したり、アレンジを加えたり。人間の手

＜土器づくりのようす＞

作業ですので少しずつ違ってきます。縄文時代の土器もこのように変化していったのかもしれませんね。

その後、土器を約一ヶ月間陰干しし、６月 14 日に野焼きを行いました。土器作りの成功は、半分以上焼きにかかっているといっても過言ではありません（実は成形の過程でも、焼いた時に割れにくいように工夫しています）。見学の皆さんが見守るなか、ほぼ無事に焼き上がり、職員もほっと一安心しました。

毎年定番の実技講座ですが、毎回、作る人の数だけ新しい発見や驚きがあります。縄文時代の大発明「土器」を作って、いろんな発見をしてみませんか？

夏のまほろん

まほろん夏まつり

今年は、７周年記念イベントとして、「まほろん夏まつり」を開催します。大勢のみなさま方のご参加をお待ちしています。

期日：７月 12 日（土）・13 日（日）10:00 ～ 15:00

場所：まほろん体験広場・エントランス

内容:●まほリンピック（古代３種競技） 弓矢で射的、火おこしタイムトライアル、槍投げの総合点を競います。（上位３名を表彰）

●「しのぶもちずり」に挑戦

絹の布をタデアイの生葉で染めます。

●古代の釣りに挑戦

鹿角の釣針、矢竹の竿、カラムシの糸を使って、ニジマスを釣ります。

他にも、カルメ焼き、お誕生日記念品進呈、勾玉づくり無料抽選会を企画しています。

＜鹿角製釣針で釣れたニジマス＞

＜弓矢体験＞

夏休み特別体験メニュー

今年も夏休み特別体験メニューとして、楽しい体験を準備してお待ちしています。

＜弓矢･槍投げ体験＞７月 19 日（土）～８月 24 日（日）10:30 ～ 12:00、13:30 ～ 15:30

＜バックヤードツアー～収蔵庫探検～＞７月 28 日（月）～８月１日（金）、８月 18 日（月）～８月 22 日（金）、各日１回目 11:30 ～、２回目 14:30 ～

＜火おこし体験＞８月２日（土）～８月 17 日（日）11 時 30 分ごろ、14 時 30 分ごろ

夏休みの実技講座

★７月 26 日（土）・27 日（日）親子で縄文土器づくり、各日定員 10 組

★８月２日（土）親子で土笛づくり、定員 10 組

★８月９日（土）古代の染色に挑戦、午前の部、午後の部、各 16 名

企画展案内

金の冠　鐵のかぶと　―東京国立博物館収資料に見るふくしまの古墳時代―

会　期：７月 26 日（土）～８月 31 日（日）
休館日：８月 25 日（月）
場　所：特別展示室
入場料：無料

戦前や戦後まもなく、福島県内で発掘され、東京国立博物館に収蔵された考古資料があったことをご存知ですか？まほろん夏のてんじでは、これまで県内で公開される機会が少なく、地方史などの記録によって知られてきた６古墳（いわき市の金冠塚古墳・後田古墳・大志田古墳・細谷遺跡、福島市の浜井場古墳、相馬市の高松古墳）の出土品を、当時の貴重な写真や記録とともにご紹介します。

金冠塚古墳（昭和 25 年第一次調査、昭和 28 年第二次調査）から出土した金銅製飾金具は、冠の立飾である可能性が高いと考えられています。今回の展示では、福島県立博物館所蔵の鉄製甲冑を含め、当古墳の遺物を可能な限り一堂に展示します。

後田古墳（大正２年発見）は、県指定重要文化財に指定された陶棺が有名です。今回、この陶棺の中から出土した土製の環を展示します。素焼きで白色の塗料があり、釧を模したと思われる興味深いものです。

＜金冠塚古墳出土の金銅製飾金具＞

大志田古墳（大正６年発見）から出土した青銅製の環頭柄頭は、部分的に金の輝きが残っており、当時の美しさが感じられます。

細谷遺跡（大正３年発見）は、管玉、切子玉、ガラス小玉など様々な玉類を展示します。

浜井場古墳（明治 43 年発見）は、六つの鈴がついた青銅製の鈴釧などを展示します。

高松古墳（明治 29 年発見）は、平成 19 年度に修復されたばかりの須恵器、土師器などを展示します。

まほろんで、上記の資料を見ながら、県内の考古学の足跡をちょっと振り返ってみませんか？

まほろん研究広場

アンギンを考える～その２「アンギンはどのような道具や方法で製作されたのか」～

前回に引き続いてアンギンを取り上げますが、今回は縄文時代におけるアンギンの製作法について推測したいと思います。

発掘調査時にアンギンを製作したと考えられる道具、具体的には近世以降の越後アンギンに用いられたアンギン台の一部、また経糸を巻き取り、垂下させるコモヅチとよばれる錘と考えられるようなものが出土していればよいのですが、今のところよくわかっていないのが現状です。ですから推測するしかないのです。

写真の①は中国やアイヌ等の民俗例にも見られる吊掛式により製作した時の様子です。まず、刻み目を入れた横木を木の枝に固定し、刻み目の先端に石錘を付けた経糸を掛け、２本の緯糸を経糸に絡めながら編み進めていく方法ですが、当日は風が強くて、経糸が流れ、なかなか経糸をまっすぐにすることができず、作業は困難を極めました。写真の②は、長野県上伊那地方の蓆編等に見られる緯編法とよばれる製作法です。木枠のようなものの一対に経糸を張り、２本の緯糸を絡めながら編み進めていく方法です。実際に経糸を張って固定し、２本の緯糸を絡めながら編み進め布状にしていきましたが、この方法はとてもやりやすく、編み目も揃ってきれいにできました。縄文時代の貝塚から、しばしば鹿角や獣骨製の骨針が出土することがあります。骨針の先端には孔が空いており、ここに糸を通したことが考えられます。写真③は、福島県三島町荒屋敷遺跡から出土した用途不明の木製品です。実際に観察しましたら、木棒に紐状の繊維を密に巻きつけていました。研究者によっては、これはアンギン台に掛ける横木にあたるもので、糸間のわずかな溝に経糸を掛けた可能性が高いということです。しかし、写真④の民具の編籠の把手を見てください。非常に類似しているとは思いませんか。

①吊掛式によるアンギンの製作
②緯編法によるアンギンの製作
③荒屋敷遺跡から出土した用途不明木製品
④編籠（栃木県鹿沼地方に伝わる民具）『平成 20 度春期企画展「野州麻」』2008　栃木県立博物館より転載

結局、結論が出ませんでしたが、縄文時代のアンギンはどのような方法で編まれたかという課題は、これまでの出土遺物とともに、さまざまな可能性を地道に検証していく必要があるのではないかと考えています。

（専門学芸員　佐藤悦夫）

文化財研修のご案内

７～９月の研修案内

ようやく本格的な梅雨をむかえ、駐車場の紫陽花も雨に映える季節となってきました。梅雨が開けると本格的な夏となります。

７月 19 日（土）の専門考古学講座Ⅰ「蝦夷と古代東北」では、福島大学名誉教授工藤雅樹**先生**をお招きします。蝦夷とは何か、蝦夷の反乱とはどのような出来事だったのかなどを中心に、大化の改新前後から平泉藤原氏の時代までの北日本の歴史を通観します。

８月３日（日）の体験学習支援研修４「指導者のための糸づくり」では、身近な植物であるカラムシから繊維を取りだし、縄文土器の表面に残る縄目風の糸づくりに挑戦します。

８月６日（水）～８日（金）の教職員発掘調査体験研修では、学校の先生方を対象として、発掘調査現場で、実際に調査を体験していただきます。

８月 24 日（日）の無形の文化財研修「民俗芸能の見方と楽しみ方」では、福島県文化財保護審議会委員

＜平成 18 年度の無形の文化財研修＞

懸田弘訓**先生**をお招きして、神楽、田遊び、田植踊、三匹獅子、念仏踊など、具体的な事例を挙げながら、民俗芸能の見方と楽しみ方をわかりやすく解説します。最後には参加者のみなさんで踊を体験します。

９月 13 日（土）の入門考古学Ⅱ「衣の考古学」では、縄文時代の遺跡から出土した布や土器の底に残された痕跡について、解説するとともに、その製作方法について、考古学の成果からも追求していきます。

多くのみなさまの参加をお待ちしています。

シリーズ収蔵品紹介７

水辺の祭祀遺物

写真上は、本宮町高木遺跡発見の水辺の祭祀跡です。場所は、阿武隈川に架かる昭代橋のたもとで、時期は、７世紀前半に求められます。低湿地に面して楕円形の穴が並び、土器類が密集していました。よく観察すると、甕や壺は胴部に穴が開けられ、食器には、写真下の祭祀遺物が収められています。この時期の祭祀跡としては、規模が大きく、単なる一集落の祭祀行為とは考えられません。

そこで注目されるのが、祭祀跡の東西方向に寺院跡と駅屋が並ぶことです。このことから、今の昭代橋付近を通過する古代交通路の存在を示唆され、対岸で東山道に交差したとみられます。そうすると、この祭祀は交通の結節点で行われたのではないでしょうか。７世紀前半は律令社会形成の起点にあたり、当時、古代交通の原型が出来上がったと推定されます。当該期に集落規模が急激に拡大したのも、この背景があったのではないでしょうか。

＜上：土器類の出土状況　下：祭祀遺物（鏡と玉）＞

まほろんからのお知らせ

夏休みは無休です

もうすぐ、夏休み、７月 15 日から８月 24 日の期間中は、月曜日も開館しています。楽しい体験を盛りだくさんで準備しています。

是非、遊びに来てくださいね。

ご利用案内

開館時間	9：30 ～ 17：00（入館は 16：30 まで）
休 館 日	月曜日（月曜日が祝日・休日の場合はその翌日、ただしＧＷ・夏休み期間中は開館）、国民の祝日の翌日（土曜日・日曜日にあたる場合は開館）、年末年始（12 月 28 日～１月４日）
入 館 料	無料（体験学習によっては、材料費が必要な場合もあります。）
そ の 他	団体（20 名以上）でご利用の場合は，事前にご予約ください。